

琉球弧の祭祀と行事【二】

沖縄本島と周辺離島編 写真・文／木原盛夫



琉球弧の祭祀と行事【二】

沖縄本島と周辺離島編 写真・文／木原盛夫

CONTENTS

- 斎場御嶽・せーふあうたき・・・3P
久高島の田正月・・・7P
十六日祭・ジュールクニチー・・・29P
辻の田二十日正月・・・32P
鏡水の三月あしび・・・42P
平安座島のサングウチャー・・・50P
伊是名島の公事シーミー祭・・・56P
幸地腹・赤比儀腹両門中のシーミー・・・64P
南城市古堅のミーミンメー・・・71P
波上宮 なんみん祭・・・81P
渡名喜島のシマノーシ・・・90P
糸満ハーレー・・・118P
奥武島の海神祭・・・124P
大嶺の地パーリー・・・135P
那覇ハーリー・・・138P
豊見城ハーリー・・・140P
小湾アギパーリー・・・142P



【斎場御嶽・せーふあうたき】 2012年7月15日撮影

南城市にある、琉球王国の最高の聖地とされる斎場御嶽。王国の最高神職である間得大君（きこえおおきみ）が管理した御嶽で、間得大君の就任儀式である御新下り（おあらおり）が行なわれた。

御嶽の中には6つのイビ（聖域）があり、その中の大庫理（うふぐーい）、寄満（ゆいんち）、三庫理（さんぐーい）は首里城内にある建物や部屋の名前と同じものが付けられている。



3Pは、木漏れ日が美しい杜（御嶽）の中。4P上は大庫理、4P下は寄満。5Pは三庫理。岩がもたれ合う巨大な通路を抜けると、久高島を遥拝できる拝所に出る。



三庫理から、琉球開闢の祖であるアマミキヨが天から降りて最初に造った島だといわれる久高島を眺める。



【久高島の旧正月】 2014年1月30日～2月2日撮影

沖縄でも今や新暦の正月が主流だが、久高島では旧暦の正月行事が連綿と受け継がれている。

トシヌユル（大晦日）の久高島。正月の神事が行なわれる外間殿では、14時頃からハカイメー（供出）が始まった。集落の方が泡盛の瓶を持って次々に殿を訪れる。供出は男性一人につき泡盛1杯と100円。嘗て神女が大勢いらした頃は、神女がお米を供出していたという。



8Pは、供出の様子。集落の方が持参した泡盛の瓶からグラス1杯分を徴収し、やかんに集めノートに記入する。

9P下は、交流センターの厨房で明日のウサイ（ご馳走）を作る子供たち。





元旦の朝、日の丸の旗を掲げた家並みを撮影して歩く（写真の家は久高ヌル殿内）。

外間殿に行くと、9時頃から神人が一人また一人と殿に歩いていらっしゃった。カゴ付きのカートを押して庭に入られたのは、久高島で只一人の男性神職者となった外間根人（ニーチェ）。

9時半になって、若い神人の女性が殿に向かって神謡を歌った。その歌声は堂々として威厳すら感じられる。何かで覚えたという風ではなく、それは内から発せられる自信に満ちた声だった。

神人が揃い竜の方へ向かって祈願が行なわれた。





元旦の外間殿では、シャクトゥイ（盃事）が行なわれる。神人が並ぶ拝殿に、年齢順に男性から二人一組で上がり、健康祈願の盃をいただく。シャクトゥイが済んだ者は殿の庭に降り、カチャーシーを舞う。

12P下は、シャクトゥイに使われる酒器。



カチャーシーの時には三線、太鼓に手拍子が鳴り、庭は賑やかに華やか。時には神人が殿から下りて参加し、盛り上げる。

16P上は、久高島の始祖家の一つである大里家（うぶらとう）の元旦の様子。16P下は、外間殿の神事が終わり、家路につく神人。



お正月二日目はハチウクシー。年頭の仕事初めの儀式が行なわれる日で、漁師は船に大漁旗を掲げ、塩、お酒、刺身を供えて航海安全と大漁祈願をお願いする。

久高島にはフェリーが発着する徳仁港と漁港の2つがあるが、祈願の終わった漁師たちはそれぞれ自分の船を繋いでいる港で祝宴を行っていた。

港での宴が終わった午後、三線と太鼓を持った青年たちが集落を歩いていた。漁師の家を一軒一軒まわって酒宴をするという。この家まわりを、ヤミグルーと言うそうだ。



18



18Pは、漁港に繋いだ船の船先にお神酒と料理を供えて祈願する漁師。

19Pは、フェリーの発着する徳仁港の外れで始まった、ハチウクシーの宴。

19



少しずつ人が集まり唄と踊りが始まった。今なら参加費500円（後から1000円になった）と言われ、祝宴にまぜてもらった。お酒飲み放題に、お刺身と魚汁、シャコガイや伊勢エビも出てきた。2IP上は、漁港での宴。下は家々をまわる、ヤーミグループ。



お正月三日目。今日もミッチャススク（三日目の盃事）と言う神事があり、元旦と同じくシャクトゥイが行なわれる。

比嘉康夫さんの「神々の古層」によると、<おにぎり、大根と魚の煮付け、泡盛を膳に乗せた供え物を用意し、火神、ミウブグウイミンナカ、床ヌ神、ティントゥジーキ、外間根屋の始祖に対して祈願が行なわれ、その後にシャクトゥイが開始される>。

22Pは、雨の中、殿に入る神人。23P上は、竜に向かって火神に御願する外間根人。下は火神。





24Pは、神人から健康祈願の盃をいただくシャクトゥイの儀式。25Pは、シャクトゥイの後のカチャーシーに殿から下りて一緒に舞う若い神人。26Pは、神事が終わり家路に着く神人。元旦より列席者が少なかったため、昼前にはシャクトゥイが終了した。



琉球開闢の祖・アマミキヨが天から降りて、ここから国造りを始めたと言われる神の島、久高島。

27Pは、イシキ浜へと下りる道。道の途中には小さな御嶽がある。イシキ浜に五穀が入った壺が流れ着き、ここから久高島、沖縄本島へと穀物が広まったとされる。

28P上は、アマミキヨが始めて降り立った場所と言われるカペール岬に続く道。

28P下は、沖縄七御嶽の一つで、久高島最高の聖地とされるフボー御嶽の入口。



【十六日祭・ジュールクニチー】 2014年2月
15日撮影

旧暦1月16日は、ジュールクニチーと呼ばれ、グソー（あの世）の正月だとされる。お墓参りに行き、料理を供え、祖先がお金に困らないようにウチカビ（あの世のお金）を焼いて供養する。

沖縄本島より宮古・八重山の方が盛んだが、那覇市にある三重城（みーぐすく）跡にはこの日、離島出身者が集まり、それぞれ出身の島の方角へ遠拝して先祖供養を行なう。



30



R02-017



【辻の田二十日正月】 2013年3月1日、2014年2月19日撮影

旧暦1月20日はハチカソーグッチと呼ばれ、正月行事の終わりで飾り物を取り払う。

この日、琉球王国時代に中国からの冊封使や薩摩の役人を接待するために作られた花街・辻（チージ）では、ジュリ（花街で働く女性たちのこと）に感謝と祈りを捧げ、商売繁盛と豊年を祈願する行事が行われる。32Pの写真は、事務所となる辻新思会の、ミルク（弥勒）と獅子ガナシーを祀った祭壇。





神人役の女性による御願は、海蔵院、志良堂御嶽、祝女井戸、石被、インダカリの火神、ジク（首里城への遠拝場所）、辻むら開祖之墓で行なわれる。33P下は、海蔵院での御願。





36P上は、祝女井戸（ヌルガー）での御願。
36P下は、石被（イシカブイ）でのジュリ馬奉納。馬の頭の張り型を付け、ゆいゆいゆいと掛け声を上げて踊る。
37Pは、ジク（ジュリとなった王女たちが首里城に向かって遙拝した場所）での御願。

and more...